

瀬谷区地域子育て支援拠点事業 有識者を交えた事業評価 実施概要

対象事業	瀬谷区地域子育て支援拠点事業
対象期間	令和3年度～令和5年度(3か年度)
事業の実施者	特定非営利活動法人 さくらんぼ
	瀬谷区こども家庭支援課
実施目的	<p>1 これまでの3か年度の事業を振り返り、成果や課題、今後の方向性などを整理するために実施するものです。</p> <p>2 市民協働事業の実践を通じて経験を蓄積し、その後の市民協働や市民協働事業に活かしていくため、また、当該協働事業の当事者だけでなく、多くの市民等の協働への参加意欲を高めるため、当該評価を公開し、透明性を高めていくために実施するものです。</p>
振り返りの視点	<p>拠点事業は、区と運営法人との協働により進めています。毎年度、事業ごとに定めている「目指す拠点の姿」に沿って役割分担し、行動計画を立て、年度末には「振り返りの視点」に沿って取組の振り返りを行いながら事業を進めてきました。今回の事業評価では、2期の振り返りを踏まえた、3か年の取組みについて、振り返りを実施しました。</p> <p>【参考】 拠点の7事業</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 乳幼児の遊びと育ちの場及びその養育者の交流の場の提供（親子の居場所事業） 2 子育てに関する相談及び関係機関との連携に関すること（子育て相談事業） 3 子育てに関する情報の収集及び提供に関すること（情報収集・提供事業） 4 子育てに関する支援活動を行う者同士の連携に関すること（ネットワーク事業） 5 子育てに関する支援活動を行う者の育成、支援に関すること（人材育成、活動支援事業） 6 地域の住民同士で子どもを預け、預かる支え合いの促進に関すること（横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業） 7 子育て家庭のニーズに応じた施設・事業等の利用の支援に関すること（利用者支援事業）
実施時期	令和4年8月～令和5年8月
実施方法	<p>1 利用者の意見等を反映させるため、拠点利用者や区の乳幼児健診受診者を対象に、「瀬谷区子育てに関するアンケート調査」を実施しました(令和5年1月～令和5年2月)。</p> <p>2 拠点の7事業の「目指す拠点の姿」に対して、区及び運営法人それぞれの自己振り返りを実施しました(令和5年5月～7月)。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【参考】 地域子育て支援拠点事業評価シート 4段階自己評価の意味 A よくできた／B できた／C あまりできなかった／D まったくできなかった</p> </div> <p>3 それぞれの自己振り返りをもとに、両者で内容を確認し、意見交換しながら相互振り返りを実施しました(令和5年5月～8月 計8回)。</p> <p>4 相互振り返りをもとに、拠点事業に造詣の深い有識者を交えて、「瀬谷区地域子育て支援拠点事業 有識者を交えた事業評価(相互評価のまとめ)」を実施しました(令和5年8月22日)。</p>

協働事業プロセス相互検証シート

1 事業計画段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

・日頃から定例会などを通じ子育て家庭を取り巻く状況について情報共有し、拠点と区でお互いにニーズを共有しながら事業を進めたことで、ニーズを活かした事業計画を作成することができた。
・拠点と区とそれぞれの特性を活かし、計画を作成することができた。

【今後改善が必要と思われること】

・地域の自治会・町内会や活動団体などに事業計画の段階から参加してもらうような取り組みが必要である。

2 事業実施段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

・定例会のほかカンファレンスなど日頃から情報共有をしながら事業を進めることができた。
・拠点のプログラムに区も参加して事業を実施し、内容の改善などを協働によりブラッシュアップさせ、プログラムに反映することができた。

【今後改善が必要と思われること】

・子育て支援事業だけでなく関連事業や他分野の団体などの情報を広く収集し関係性を高めていく必要がある。今後はこれらの取り組みをきっかけに関連事業や他団体とも連携して地域で子育てをする環境づくりを行っていく必要がある。

3 事業の振り返り段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

・事業終了後など定期的な振り返りの機会を設け、次回の事業計画に活かすことができた。

【今後改善が必要と思われること】

・今後も拠点と区と共通認識を持って事業実施ができるよう引き続き情報共有、課題の共有など丁寧に行っていく必要がある。
・協働事業として得られるメリットをより意識して事業を進めていく必要がある。

1 親子の居場所事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価 (A~D)	
		法人	区
①利用者を温かく迎え入れる雰囲気のある場になっている。	区と拠点で「瀬谷区子育てに関するアンケート調査」で把握した、利用しない人のニーズの分析を行い、継続的にすり合わせをする必要がある。	A	A
②多様な世代、性別等の養育者と子どもが訪れる場になっている。		A	A
③養育者と子どものニーズ把握の場になっている。		A	A
④親(養育者)自身が親として育ち、また子どもが育つ場となっている。		A	A

評価の理由(法人)

(主なデータ)

ひろば利用者 延べ人数	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	7,078	6,126	6,734	7,391

ひろば利用者 実人数	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	1,283	799	1,001	1,100

利用のきっかけ	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
市・区の広報誌、チラシ	22.30%	27.20%	28.60%	27.90%
市・区のホームページ	7.70%	9.50%	10.10%	10.00%
区役所の紹介	15.70%	16.50%	17.40%	17.70%
拠点のホームページ	11.60%	13.30%	12.90%	12.50%
民間の情報誌	0.10%	0.40%	0.60%	0.80%
友人・知人から	29.00%	27.40%	23.20%	22.50%
その他	13.60%	5.80%	7.20%	8.60%

父親の来館数	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
人数	334	414	460	456
率(%)	5.60%	7.80%	7.90%	7.10%

出張にこてらす 開催実績	R2年度	R3年度	R4年度
実施回数(回)	実施なし	18 (阿11、下7)	16 (阿12、下4)
参加組数(組)		69 (阿36、下33)	93 (阿51、下42)

にこポンテ 開催実績	R1年度 (R2.3休)	R2年度 (R2.4-8休)	R3年度	R4年度
実施回数(回)	58	28	48	47
参加組数(組)	138	115	213	179

プレママ・パパ 来館数	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
プレママ(人)	4	6	14	46
プレパパ(人)	1	4	8	40
合計(人)	5	10	22	86

① みんなで子育てする場

- ・新規利用者には常連利用者がひろばの使い方を教えるなど、利用者同士の助け合いや交流のきっかけになっている。
- ・危険箇所チェックやひろばの片付けを利用者と一緒に行うなど「ひろばはみんなで子育てする場」であることを意識して運営した。
- ・学生や先輩ママ等の様々な世代のボランティアと親子との交流の場を提供した。
- ・コロナ禍においても予約なしで気軽にひろば利用ができるように、ひろばの混雑状況をSNSで発信したり、着替えやタオルの貸出方法を工夫するなどの取り組みを行った。
- ・工作コーナーを常設するなど、利用者同士の交流のきっかけとなる場を設けた。

② 養育者の多様性を意識した運営

- ・来館のきっかけになるようパパ、ファミリー、プレママプレパパ向けプログラムなどを開催した。
- ・継続的に外国籍のスタッフを配置することで、外国籍の利用者からの相談が増加したほか、拠点HPに自動翻訳機能と外国人向けのページを増設し、外国人親子が利用しやすいように工夫した。
- ・祖父母と子どもがひろばを利用する際、利用場面によってスタッフ側が配慮することで、利用が多くなった。
- ・拠点から遠くて来館が困難な地域では出張にこてらすを地域の担い手(ひろばのOGなど)とともに行った。
- ・育てにくさを感じている親子のひろば(にこポンテ)を毎週木曜日に開催している。拠点の利用者がひろばを利用しやすいように、さまざまな子どもの育ちを考える啓発期間を設けている。

③ 養育者と子どもの声を拾うひろば

- ・普段のひろば利用時の歓談の中からニーズを把握して、毎日の振り返りで利用者から拾ったニーズを共有して、ひろば運営に活かしている。
- ・プログラム実施後に利用者にアンケートを取り、結果を区の定例会やスタッフ会議で共有し、プログラムの新設と改善に反映させている。
- ・「拠点から遠い」、「近くに遊び場が少ない」など、利用者や地域の子育て支援施設のスタッフなどから把握した声を受け、「出張にこてらす」を阿久和、下瀬谷方面で開催している。拠点から遠い地域のニーズ把握の場にもなっている。
- ・乳幼児健診などの機会を活用し、拠点利用者に限らず区内の養育者のニーズ把握に努めた。

④ 親も子ども育ちあうひろば

- ・スタッフから過保護・過干渉することなく見守ることで、親自身の育て方を尊重し、子どもたちが自ら育つ力を応援する姿勢を大切にしている。
- ・年齢による遊び方や子ども同士の関わり合いを通して個性や成長の違いに親が自然に気付ける場となっている。
- ・養育者のニーズから年齢別プログラムや悩み別プログラムでは受け身型の講座でなく、参加者や先輩ママが体験を語る場を設け、親同士共感し解決していく内容にしている。
- ・専門職が定期的にひろばに入ること、養育者の学ぶ機会を設けた。

評価の理由(区)

1 拠点の周知及び利用のきっかけづくり

母子手帳交付時や母親両親教室・赤ちゃん教室などの場面で拠点の役割等について案内した。にこてらす利用者アンケートにおいて、半数を超える約55%の利用者が区からのアプローチをきっかけに利用していると回答しており、必要な周知・きっかけづくりが行えている。

2 切れ目のない案内

妊娠後期のお便りや赤ちゃん教室、子育て応援イベントなど、各種区事業の場を活用し、妊娠期から未就学児の世帯まで切れ目なく拠点の案内を行った。

3 利用者のニーズ把握

個別のプログラムのアンケート結果についての共有、利用者アンケートにおける適切なニーズ把握につながるような設問の検討、乳幼児健診受診者を対象とした利用者以外のニーズ調査など、拠点と連携しながら必要な支援を行った。

4 育ちの場としての環境の整備

拠点が育ちの場としての機能を発揮できるよう、情報の共有や具体的事例に対する助言などのソフト面の支援のほか、不具合が発生している設備の修繕にかかる関係機関との調整などハード面の支援を行った。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・コロナ禍でも気軽に利用できるよう工夫した取り組みを行った。
- ・妊娠期の支援メニューの充実により切れ目のない支援体制を整備した。
- ・支援する・されるという関係ではなく、みんなで支えあう機運を醸成した。

(課題)

- ・コロナ前の状態に戻すのではなく、今の親と子の声を大切にして、新たな取り組みを進める必要がある。
- ・子ども本来のニーズの把握をより意識する。

振り返りの視点

- ア いつでも気軽に訪れることができ、安心して過ごせるような配慮、工夫をしているか。
- イ 居場所を訪れる様々な利用者(養育者、子ども、ボランティア等)の間に、交流が生まれるように工夫しているか。
- ウ 多様な養育者と子どもを受け入れる配慮や工夫をしているか。
- エ 養育者と子どものニーズを把握するための工夫をしているか。
- オ 把握されたニーズを区関係機関と共有し、ニーズに応じて必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。
- カ 子どもの年齢・月齢に応じた遊びの環境が整備されているか。
- キ 子ども同士の関わりが尊重され、子どもが健やかに育つために必要なことに養育者が気付き、学ぶ機会を提供する場となっているか。
- ク 養育者同士が相談、情報交換し、課題解決し合う仕組みや仕掛けがあるか。

2 子育て相談事業

目指す拠点の姿	(参考) 2期目振り返りの課題	自己評価 (A~D)	
		法人	区
①養育者とスタッフとの間に安心して相談できる信頼関係ができ、気軽に相談ができる場となっている。	・名札ストラップの取り組みについて検証し、改善する必要がある。 ・スタッフのさらなるスキルアップを目指し、相手に寄り添う相談対応の向上を図る必要がある。	B	B
②相談を受け止め、内容に応じて、養育者を関係機関につなげている。また、必要に応じて継続したフォローができています。		B	B

評価の理由(法人)

(主なデータ)

相談件数	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
利用者延べ数	7078	6026	6734	7391	
利用者支援事業(件数)	666	680	742	774	
子育て相談事業(件数)	1225	891	1103	915	
内訳	ひろば	833	505	438	395
	専門個別相談	392	386	665	520

【専門相談日】(R4年度実績)

保育士:6回/年
 保育・教育コンシェルジュ:6回/年
 助産師:11回/年
 臨床心理士:12回/年
 栄養士:12回/年
 薬剤師:6回/年

① 安心して相談しやすい仕組みと相手に寄り添う対応

・多胎児、外国人、障がい児等様々な子育て経験のあるスタッフを配置している。
 ・顔写真付きのスタッフ紹介の掲示や丁寧な声かけなど親しみやすい雰囲気意識し、雑談の中から日頃の小さな悩みを出せるようなひろばになっている。
 ・多様な相談ができるよう定期的に保育士、栄養士、助産師等による専門相談日を設け、拠点通信、SNSなどで気軽に相談できることを周知している。
 ・課題となっていた名札ストラップについては利用者、関係者を対象としたアンケートを検討している。
 ・相談場所はひろば、庭のデッキ、個室と相談者が選択でき、相談時の気持ちや内容に沿えるよう配慮している。
 ・外国人でも相談しやすい場所であることを周知するため、多言語の情報チラシ、絵本、HPでの外国人向けページ増設、6か国語自動対応機能を付けるなど工夫している。
 ・育てにくさを感じている養育者や、他利用者への気兼ねからひろば利用にためらいを感じる親子の居場所として、毎週1回、にこポンテを別室で開催している。

② 相談内容の傾向の把握と振り返りから望ましい対応へ

・毎日の振り返りで共有するほか毎月のスタッフ会議で相談内容の傾向を確認している。
 ・様々な相談を想定し、拠点の職員で対応を検討した上で、区保健師などからさらにアドバイスを受けて、虐待防止研修を行うなど、知識を深め各種相談に対応し、必要時関係機関へ繋ぐことができるよう対応者のスキルアップに努めている。

③ 区との連携と役割分担のうえの継続的な関わり

・区と毎月のカンファレンスの際には必要な情報共有を行い、養育者への適切かつ効果的な支援を行えるよう各種専門機関との連携連絡体制を作っている。
 ・外国人についても必要に応じて関係機関につなげられるよう関係づくりに努めている。

評価の理由(区)
<p>1 相談事業の周知と専門相談の支援 赤ちゃん教室や乳幼児健診等で拠点の相談事業を紹介した。また、保育コンシェルジュや育児支援専任保育士等の専門的な相談に対応できる職員の派遣について調整を行った。</p> <p>2 相談対応に係る連携と支援 専門的な対応が必要と考えられる場合には、区の担当保健師を通じて地区担当の保健師やケースワーカーの支援につながるようにしており、拠点と区の連絡・連携の体制が構築されている。また、区職員による研修を実施する等、相談対応に関するスキルアップの場を提供した。</p>

拠点事業としての成果と課題
<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人スタッフがいるため、母国語での相談ができることが周知され、相談に繋がっている。 ・養育者のニーズをふまえ、専門相談の種類を増やすことで、困りごとを吸い上げ相談に繋いでいる。 ・スタッフ間での振り返りの中から、相談の傾向を把握し、同じ悩みを持つ養育者同士を繋ぐための新たなイベントを実施した。 ・スタッフ間の情報共有が密に行われ、拠点内他事業につなぐことも常時意識されてそれぞれの機能を活用できている。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・父親の利用増加を受け、父親のニーズを把握する必要がある。 ・相談のスキルアップのため、事例検討や研修を区と拠点で協力し実施していく。 ・コロナ禍を経て、ひろば滞在時間が短縮される傾向であるため、利用者との関係づくりの方法を検討する。

<p>振り返りの視点</p> <p>ア 養育者が相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。</p> <p>イ どのような相談に対しても傾聴し、相手に寄り添う相談対応を行っているか。</p> <p>ウ 相談内容の傾向を把握し、振り返りを行い、望ましい対応の検討や共有に努めているか。</p> <p>エ 各種専門機関の役割を把握し、養育者への効果的な支援を行うための連携、連絡体制を作っているか。</p> <p>オ 専門的対応が必要と考えられる相談について、適切に対応しているか。</p> <p>カ 関係機関とつながった後にも、役割分担に応じて、継続的な関わりを持っているか。</p>
--

3 情報収集・提供事業

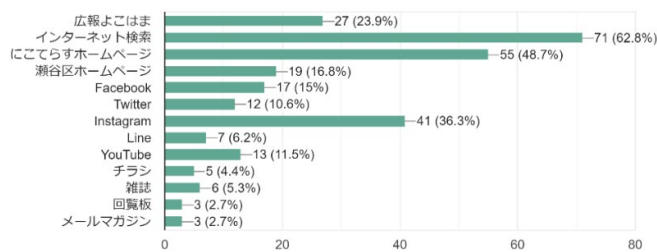
目指す拠点の姿	(参考) 2期目振り返りの課題	自己評価 (A~D)	
		法人	区
①区内の子育てや子育て支援に関する情報が集約され、養育者や担い手に向けて提供されている。	・子育て応援マップについては、養育者へのアンケートなどを実施して、利用者目線で更新・改訂を行う必要がある。 ・拠点が情報収集・提供の窓口であるということを、関係機関により広く周知する必要がある。	A	A
②子育てや子育て支援に関する情報の集約・提供の拠点であることが、区民に認知されている。		A	A
③拠点の情報収集、発信の仕組みに、養育者や担い手が積極的に関わっている。		A	A
☆			

評価の理由(法人)

(主なデータ)

拠点通信「おいでよ」 2200部/月 170カ所 子育て応援カレンダー 1600部/月112箇所
 せや子育て応援マップ ぐるっとなび 7000部 /260カ所
 にこてらすHP 地域の子育て支援に関する情報ページ開設
 にこてらすInstagram(フォロワー数420) 瀬谷区子育て応援ネットInstagram(フォロワー数380)開設
 令和2年度 にこてらす利用者アンケートより

Q26 子育ての情報を得るために利用している手段を教えてください。(複数回答可)
 113件の回答



① 子育て支援情報の収集・提供

・瀬谷の拠点は駅から遠く来所しにくいという課題がある。そのため広報紙・HPや子育て応援カレンダー・子育て応援マップ「ぐるっとなび」・SNSなどさまざまな媒体を通じ、支援情報を提供した。
 また、親と子のつどいのひろばと共に区内の常設の居場所をまとめたチラシを作成、拠点やこんにちは赤ちゃん訪問・両親教室・地域の支援会場に配布し、いつでも行ける地域の居場所の情報を提供した。
 ・令和2年度に「子育ての情報を得るために利用している手段」について利用者アンケートを行った。インターネット検索やInstagramの割合が高かった結果をふまえ、拠点HPにプレママ・外国人・地域のなど子育て情報のページを整備し、6か国語自動翻訳もできるようにした。また拠点と瀬谷区子育て応援ネットのInstagramを新設し、より利用者が情報を得やすいようにした。
 ・出張ひろば(令和4年度16回)や出張パートナー相談(令和4年度24回)・4か月健診会場(毎月2回)などで拠点や地域の支援会場などの子育て支援情報の提供も行った。
 ・チラシだけでは伝わりにくい地域の支援会場の様子や担い手の顔が伝わるよう、子育て応援イベント(4地区各年1回)を実施したり、地区担当者が担当地域をまわりひろばやSNSで伝えた。直接担い手と話し現状や課題を共有することで、より適切でわかりやすい情報提供ができた。
 ・ひろばでは地域別の情報を6色に分けて掲示し、利用者がより近所の情報を得やすくなるよう工夫した。利用者のニーズに合わせ情報提供できるよう、新規来館者用資料「引越しパック」「プレママパック」や「多言語情報コーナー」などを作っている。
 ・コロナ禍では、地域のイベント中止などの情報や家庭での遊び方、応援メッセージなどをHPや応援カレンダーで発信し、集うことが難しい中、地域の親子が孤立しないようできる限り情報を発信した。

② 子育て支援に関する情報・提供の拠点であることを周知
 ・担い手に対して瀬谷区子育て応援ネットやつどいの広場連絡会(拠点連絡会)・主任児童委員定例会など子育てに関するネットワークを通じ、拠点の情報収集提供機能について周知を行った。
 ・HPの地域のイベントページや子育て応援ネットInstagramの新設で、それらを見て地域に足を運ぶ利用者がふえ、支援者側に拠点の情報提供機能についての理解が進み情報収集・提供しやすくなった。
 ・当事者に対しひろばの新規利用時や地域の赤ちゃん教室で拠点の情報収集機能について周知を行った。

③ 情報収集・提供の企画に養育者や担い手が関わる仕組みづくり
 ・地域で子育てを楽しめるよう、当事者目線での地域情報提供のため、子育て応援マップ「ぐるっとなび」を作成。子育て当事者(令和4年度13名)や地域に詳しい担い手(令和4年度6名)をまきこみ取材・編集活動を行った。6版目となった令和4年度は当事者・支援者・掲載団体にどう冊子を活用しているか、欲しい情報についてのヒアリングを取材時に行い、地域での活用方法を紹介したチラシをリポーターと共に作成し地域に配布した。
 ・ひろばでは利用者同士の情報交換の場として、年齢別トークプログラムや幼稚園ママのインタビュータイムを設けた。またその内容をひろばに掲示し、参加できない親も知る事ができるよう工夫した。

評価の理由(区)

1 拠点への情報提供及び区民への情報提供
 横浜市や区役所各課で行う制度や事業の共有、こども家庭支援課で把握している保育園・幼稚園等の情報の提供を行った。また区事業において拠点を紹介するリーフレットの配布やパネルの展示を行い、拠点の情報提供機能について周知した。

2 情報収集、提供の企画への養育者の関わりの支援
 子育て応援マップの編集会議や取材等に同行したほか、庁内関係機関や他自治体との調整等、行政分野における支援を行った。また完成した子育て応援マップを区事業等で積極的に配布した。

拠点事業としての成果と課題

(成果)
 ・時代のニーズに呼応し、Instagramの新設やHPの整備を行ったことで、利用者にとって視覚的にもより効果的な情報発信となった。また、支援者サイドにおいても情報発信の場として活用され、双方向的な情報発信・入手の手段を確立することができた。
 ・子育て応援マップの認知度の上昇と共に、配架協力店が増加した事により子育て情報を広く周知することができた。

(課題)
 ・利用者からのニーズが高い保育園・幼稚園等の情報は、区役所と連携し、タイムリーに情報提供する必要がある。
 ・子育て応援マップがより利用者目線となるような支援情報の提供・発信のしくみを考える必要がある。

振り返りの視点

ア 養育者や担い手が必要としている情報が何かをとらえ、区内の幅広い地域の子育てや子育て支援情報を収集・提供しているか。
 イ 来所が困難な養育者や担い手も含め、情報を入手しやすいよう、さまざまな媒体や拠点以外の場を通して情報発信しているか。
 ウ 利用者が情報を入手しやすく、自ら選べるひろば内の工夫をしているか。
 エ ネットワークを活かして情報を収集し、を養育者や担い手に提供しているか。
 オ 様々な子育て支援情報を拠点が集め、提供していることを広く区民に周知しているか。
 カ 養育者や担い手から拠点到情報が届けられる仕組みや工夫があるか。
 キ 情報収集・提供の企画に養育者や担い手が関わる仕組みや工夫があるか。

4 ネットワーク事業

目指す拠点の姿	(参考) 2期目振り返りの課題	自己評価 (A~D)																											
		法人	区																										
①地域の子育て支援活動を活性化するためのネットワークを構築・推進している。	・子育てに関心のある団体のネットワークはつながってきたが、子育てに関わりが薄い が、地域活動を主体的に行っている層と当事者との関係づくりを働き掛ける必要がある。	A	A																										
②ネットワークを活かして、拠点利用者を地域へつないでいる。		B	A																										
評価の理由(法人)																													
<p>(主なデータ)</p> <p>●瀬谷区子育てに関するアンケート調査より(令和5年3月)</p> <p>・育児について困っていることや不安なことはありますか。→ある47.9%</p> <p>1位「あそび方・過ごし方」21.7% 2位「食事・授乳」20.3% 3位「しつけ」19.9%</p> <p>・家事・育児を手伝ってもらう人 1位 パートナー (55.1%)</p> <p>・用事やりフレッシュしたい時に子どもを預ける人 1位 パートナー (44.0%)</p> <p>●瀬谷区子育て応援ネット</p> <p>拠点と区が事務局になって地域で安心して子育てできる環境づくりをめざし、区内子育て支援団体で構成するネットワーク。</p> <p>【支援団体】</p> <p>令和3年度:85団体→令和5年度:90団体(新規:コミュニティー・スクール、小規模保育園、一時預かり保育事業)</p> <p>全体会:1回/年、地域別ブロック連絡会:4ブロック×各3回~6回</p> <p>●瀬谷区子育て応援イベント(令和3年度より応援ネットで企画運営)</p> <p>・当事者が地域の子育て支援に関わる団体や施設を知ること、虐待防止の啓発を目的に地域別ブロック4公園で開催。</p> <p style="text-align: center;">子育て応援イベント年齢別参加者数</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加組数 (参加者数)</td> <td>153組 (383人)</td> <td rowspan="5" style="text-align: center;">中止</td> <td>- (751人)</td> <td>215組 (490人)</td> </tr> <tr> <td>0~2歳</td> <td>230人</td> <td>153人</td> <td>220人</td> </tr> <tr> <td>3歳以上</td> <td></td> <td>309人</td> <td>28人</td> </tr> <tr> <td>0~2歳 参加割合</td> <td>-</td> <td>33.1%</td> <td>88.7%</td> </tr> <tr> <td>大人</td> <td>153人</td> <td>289人</td> <td>242人</td> </tr> </tbody> </table> <p>●拠点が参加するネットワーク</p> <p>・拠点連絡会</p> <p>親子のつどいの広場(4か所) 育児支援センター園、拠点の6団体で情報共有や課題を話す場を年6回開催</p> <p>・ピンチをチャンスに！減災共助の会</p> <p>消防署・子育て支援団体・手話サークル・高齢障害団体など10団体 災害時要援護者の理解啓発活動</p> <p>・お福分けの会</p> <p>主に瀬谷区内またはその近隣に居住している未成年を子育て中のひとり親世帯、生活困窮世帯へ月2回の食料の分かち合いを行う活動。拠点配布世帯数 43</p>					R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	参加組数 (参加者数)	153組 (383人)	中止	- (751人)	215組 (490人)	0~2歳	230人	153人	220人	3歳以上		309人	28人	0~2歳 参加割合	-	33.1%	88.7%	大人	153人	289人	242人
	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度																									
参加組数 (参加者数)	153組 (383人)	中止	- (751人)	215組 (490人)																									
0~2歳	230人		153人	220人																									
3歳以上			309人	28人																									
0~2歳 参加割合	-		33.1%	88.7%																									
大人	153人		289人	242人																									

<p>① 子育て家庭や子育て支援者の連携推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て応援ネットブロック連絡会では、参加団体(子育てサークルも含む)の活動や地域の子育て家庭の現状について情報共有を行い、互いの強みを生かした連携を推進した。 ・子育て応援ネット全体会では子育て家庭を孤立化させないためのネットワークの重要性を有識者の講演や参加団体の活動共有で確認した。 ・子育て応援イベントは、令和3年度より瀬谷区子育て応援ネットが企画運営、4公園での分散開催に変更した。これにより地域全体で養育者へ身近な子育て支援の場の提供や支援者につながる機会を設けることができた。 ・子育て応援イベントでは、支援者間でも課題として共有され、アンケート調査でも育児不安の1位であった「遊び方や過ごし方」という課題に地域全体で取り組み、子育て家庭がさまざまな遊びを知る機会を提供することで、養育者が外に出るきっかけとなった。 ・子育て応援イベントの企画段階から応援ネットに加入する子育てグループが参加し、子育て家庭のニーズを反映した内容を検討できた。 ・子育て応援イベントの運営を通じて支援者同士の連携が強化された。また、民生委員の協力も得ることができ子育て家庭の現状を知ってもらう機会となった。イベント後もそれぞれの活動で活かされ、地域の子育て支援力の向上に繋がっている。 ・父親の育児参加促進のため、地域ケアプラザや保育園・幼稚園と連携し、父親育児講座を企画した。 ・災害時要援護者ネットワークに参加し防災拠点で「災害時要援護者理解講座」を行うなど、地域へ子育て家庭の理解促進に取り組んだ。 ・「お福分けの会」に参加し、区社会福祉協議会や民生委員・主任児童員定例会で活動状況の共有を行った。 ・支援学校や多機能型拠点、自主訓練会、家族会など関係団体と連携し、障がい児理解促進に取り組んだ。 <p>② ネットワークをいかし身近な子育て支援の場へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ケアプラザと協力し地域のイベントを集約した子育て応援カレンダーを作成し、利用者を身近な地域へつなげている。 ・地区を担当するひろばスタッフが直接地域の支援の場に参加。利用者がより身近な子育て支援の場に足を運びやすいようひろばやSNSで会場の様子を伝えている。 ・絵本の読み聞かせグループ・おもちゃ病院・外遊び団体など地域の子育て支援団体がひろばに参加する「地域いきいきタイム」を設け、身近な子育て支援につながるような場を設けている。 ・出張ひろばを地域ケアプラザや子育てサークル、主任児童委員などの協力を得ながら開催することで、地域の支援者と出会うことができるよう組み立てている。
<p>評価の理由(区)</p>
<p>1 地域の子育て資源との連携の促進</p> <p>地域が主体となる子育て応援イベントを区と拠点が連携して実施し、地域の子育て資源同士の連携強化につながる取組となった。</p> <p>2 地域の子育て資源と子育て世帯のつながりのきっかけづくり</p> <p>子育て応援イベントにおいて、地域の子育て資源に運営として参加してもらうことで、子育て世帯と地域の居場所のつながるきっかけとなる場を提供した。</p>
<p>拠点事業としての成果と課題</p>
<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークの必要性を伝えていったことで、応援ネットの参加団体が増加し、地域分散した形の地域に根差した子育て応援イベントを実施することができた。 ・支援者や民生委員などの協力を得てイベント運営を行ったことで、地域との連携を強めることができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動を主体的に行っているが子育てには関わりが薄い層と子育て当事者との関係づくりを働きかける必要がある。
<p>振り返りの視点</p>
<p>ア 地域の子育て支援関係者が、互いに知り合い、理解し、子育て家庭の状況及び子育て支援の情報や課題を共有するための場、機会をつくりだしているか。</p> <p>イ 地域の子育て支援関係者が協力し、支え合えるように、関係者同士をつないでいるか。</p> <p>ウ 子育て家庭や地域の子育て支援関係者のニーズを踏まえ、子育て支援分野に限らず、様々な社会資源と連携・協力した取組を実施しているか。</p> <p>エ 養育者や子育て支援活動に関心のある人を身近な地域の子育て支援の場や地域の活動につなげているか。</p> <p>オ 子育て支援活動に関心のある方を丁寧に受け止め、必要に応じて身近な地域の活動へつないでいるか。</p>

5 人材育成・活動支援事業

目指す拠点の姿	(参考) 2期目振り返りの課題	自己評価 (A~D)	
		法人	区
①地域の子育て支援活動を活性化するため、担い手を支えることができています。	・子育て支援に関わる機会が少ない地域活動者へのアプローチを検討をする必要がある。 ・複合館のメリットを活かした、多世代のつながりづくりを、今後さらに進める必要である。	A	A
②養育者に対して地域活動の大切さを伝えるとともに、地域の子育て支援活動に関心のある人が、活動に参加するきっかけを作っている。		A	B
③広く市民に対して、子育て家庭を温かく見守る地域全体での雰囲気づくりに取り組んでいる。		A	A
④これから子育て当事者となる市民に対して、子育てについて考え、学び合えるように働きかけている。		A	A

評価の理由(法人)

(主なデータ)

ボランティア登録者数

	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
登録者数	39	15	39	47

子育て応援マップぐるっとなびりポーターアンケート(複数回答可。回答数15人)活動後の感想

ボランティア活動回数

	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
中学生ボランティア	3	0	2	1
高校生ボランティア	152	4	39	40
大学生ボランティア	8	43	13	1
地域ボランティア	92	108	273	330

地域を身近に感じることができた	11
地域にいろいろな活動や子育て支援があることを知ることができた	10
一緒に冊子作りすることを楽しめた	9
仲間づくりができた	5
子育てで感じていることを話すことができた	4

① 地域の子育て支援活動の活性化

- ・子育て応援ネット事務局として、地域ブロック会議(4地区×各年3回)や全体会などの日程調整、会議進行、議事録作成や活動目的の共有を図るなど活動のサポートを行っている。また、支援者向け研修会の企画・実施(年1回55名参加)に支援者の活動がより充実するよう取り組んだ。
- ・下火となっていたサークルを立て直すため、活動場所や活動内容の助言、直接参加するなど、活動が途切れないように意識した事業展開を行った。
- ・多世代のボランティアが活動している現状で、各世代のモチベーションの維持や活動が継続できるよう、活動の内容や種類を用意し、丁寧に聞き取りを行いマッチングすることで活動を下支えしている。

② 活動に参加するきっかけづくり

- ・子育て応援マップ「ぐるっとなび」の編集活動を当事者や地域の支援者とともにやり、子育てをしている仲間地域活動をするよさを感じる機会を作った。さらに活動した当事者が子育て応援マップに掲載したあそびをひろばで伝えるなど活躍の場を広げている。
- ・子育てサークルの活動が充実するように、活動の内容を把握したことで、サークルメンバーがデコレーションしたマタニティマークを妊婦に配付する取り組みにつながった。また、サークル活動内容を拠点のSNSで発信するなど活動が展開されるよう支援している。
- ・複合施設のため他施設を利用されている高齢者サークルの方が、ひろばのボランティア活動を希望され活動に繋がった。
- ・社会福祉協議会のボランティアだよりによりボランティア募集記事の掲載を依頼したことで、応募があり活動に繋がった。
- ・65歳以上のボランティアがいることから「シニアボランティアポイント」受入施設としての登録をし、多世代交流を意識した事業展開を行った。

③子育て家庭を温かく見守る地域全体での雰囲気づくり
 ・地域で「出張ひろば」を行うようになり、その過程で地域が出張ひろばを開催するにあたり地域ケアプラザなどの各施設や自治会などで拠点の説明や子育て世代に関する理解を深めるきっかけとなった。
 ・「お福分けの会」に参加し、多くの人手を必要とする、配送や仕分けなどの作業を地域のボランティア活動に繋げている。また、地域のボランティアに参加してもらうことで、活動の周知及び子育て世代への理解促進を図っている。
 ・子育て応援マップ「ぐるとなび」を地域に配布、自治会の勉強会で使用されるなど子育て家庭に目を向けるきっかけ作りを行ったり、掲載施設や団体にハマハグ(子育て家庭応援事業)の協賛を依頼したり地域全体で子育て家庭を応援する雰囲気作りに取り組んだ。

④これから当事者となる市民への働きかけ
 ・近隣学校にボランティア募集のチラシを掲示依頼した。その後長期休みに学生が拠点のひろばボランティアとして活動した。
 ・大学・短大・専門学校など主に看護学生のひろば実習、高校生(県立高校・市立特別支援学校)の体験授業、中学生の職業体験などの受け入れを積極的に行った。
 ・近隣、他区の市立高等特別支援学校と連携し、出張授業(妊婦体験、赤ちゃんのお世話体験)を行った。
 ・区と協力し親になる前事業として、「プレママ・プレパパきてみて体験！」プログラムに取り組んだ。

評価の理由(区)

- 1 **支援者の意欲向上及びスキルアップのきっかけづくり**
 支援者向けの研修会を拠点と協力して実施し、支援者の意欲向上やスキルアップのきっかけとなる場を提供した。
- 2 **新たな担い手の発掘・養成につながる支援**
 新たな担い手の発掘につながるよう、養育者も参加して実施する子育て応援マップの作成を拠点に委託し、養育者が地域の活動に関心を持つきっかけとなった。
- 3 **区民への子育て支援活動の周知**
 広報よこはま瀬谷区版に区内のひろば等を紹介するコラムを掲載するなど、区民への周知を行った。
- 4 **これから当事者となる市民への支援**
 親になる前支援として、区専門職が事業に参加し法人と協力して事業へ取り組んだ。

拠点事業としての成果と課題

(成果)
 ・出張ひろばの開催や子育て応援イベントの開催について、子育て支援者との繋がりが重要な民生委員や地域ケアプラザと連携して開催するなど、地域を巻き込んで子育て支援を行う雰囲気づくりに取り組むことができた。
 ・SNSで情報を交換するなど、情報発信ツールを増やしたことでより多くの地域とつながるきっかけとなった。
 ・コロナ禍で活動が制限される中でも活動意欲のあるボランティアへ丁寧に聞き取りを行いマッチングをするなど信頼関係を構築し、ボランティアの活動を推し進めることができた。

(課題)
 ・活動しているボランティア同士のつながりを作る機会の提供。
 ・コロナ禍での活動で、特に制限が強かった小中学校における子育て支援の理解促進を目的とした事業展開。
 ・地域で活動するサークルなどを支援し、より地域資源を活用した子育て支援を行って行く。

振り返りの視点

- ア 地域で子育て支援に関わる人が増えているか。かつ新たな担い手を発掘・養成する取組がなされているか。
- イ 子育て家庭や担い手のニーズを踏まえ、活動意欲の向上やスキルアップにつながる取組がなされているか。
- ウ 地域の子育て支援活動がより充実されるよう、必要に応じて新たな活動希望者を結び付けているか。
- エ 養育者が地域を身近に感じ、地域の活動に関心を持てるように働きかけているか。
- オ 活動希望を丁寧に受け止め、拠点内の活動や身近な子育て支援活動等に結び付けているか。
- カ 子育ての現状や子育て支援の必要性を周知・啓発しているか。
- キ 子育て家庭(妊娠期の方を含む)を温かく見る気持ちを持つことができるように働きかけているか。
- ク これから子育てで当事者となる市民と子育て中の親子がふれあい、学び合う機会や場を作っているか。

6 横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業

目指す拠点の姿	(参考) 1期目振り返りの課題	自己評価 (A~D)	
		法人	区
①子育てサポートシステムに、多くの区民の参画が得られている。	・利用が増えていないことについて、具体的な方法を検討し改善する必要がある。	A	B
②養育者にとって、必要な時に利用しやすい事業となっている。		B	B
③会員が地域の支え合いの良さ、大切さを理解しながら、利用や活動を継続できるように、支えることが出来ている。		A	B
④養育者の利用相談内容に応じて、子育て相談や他機関等の情報を提供し、必要な支援につなげている。		A	B

評価の理由(法人)

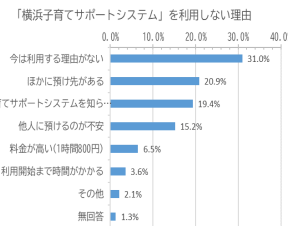
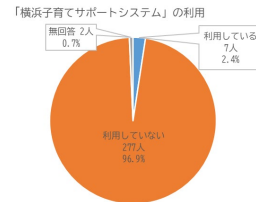
(主なデータ)

援助活動件数

	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
件数	326	628	451	371	504

会員数

	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
利用会員	171	209	211	207	225
提供会員	45	46	43	44	50
両方会員	24	31	33	33	33
休止	2	4	3	3	6



① 子育てサポートシステムを区民に広く知ってもらうための働きかけ

- ・入会説明会の案内を拠点の広報物に毎月掲載し、拠点HPも随時更新している。
- ・つどいのひろば・ログハウス・地域ケアプラザなどで出張入会説明会を実施、参加を呼びかける案内チラシを施設周辺に掲示し、周知した。
- ・区の協力で区内全小学校での入学説明会や公立保育園(3園)の入園説明会、こんにちは赤ちゃん訪問時にちらしを配付し、広く周知を行った。(保育園入所説明会の会場近くにブースを出し来場者に周知をした。)
- ・子育てサポートシステム(以下、子サポ)を紹介するパネルを作成し、子育て世帯へ周知するため区役所健診フロアに設置した。
- ・赤ちゃん教室に向き周知を継続して行っている。
- ・入会説明会の様子をSNSに投稿し周知に努めた。
- ・提供会員の活動を知ってもらうため、拠点のボランティアに子サポの案内をしている。
- ・提供会員の拡大に向けて拠点のボランティアに声かけをしたことで会員登録につながった。

② 利用しやすい働きかけ

- ・指定日の説明会に加え、ひろばでの入会説明会を実施した。
- ・会員のひろば利用があるときに子サポの利用についてヒアリングを行った。
- ・ひろばで預かりを行う「ひろばde子サポ」を新たに実施し、周知のためのチラシをひろばに掲示した。
- ・個別に希望日での入会説明会を実施し、会場も拠点だけではなく希望があれば自宅に伺って説明を行っている。

③ 活動の継続に向けての働きかけ

- ・年度変わり等変化の時期には利用会員へヒアリングを丁寧に行い、次のサポートに繋げている。
- ・事務局に足を運び報告書の提出をされる提供会員が多いため、その際ヒアリングを実施している。
- ・会員の活動の場として集団見守り「ちょこサポ」を継続し、子育てマップの編集会議や拠点プログラムの見守りなどで活動した。
- ・会員向け通信の発行し、個人情報保護の啓発や救命救急講座、交流会など活動の様子を発信した。

④ 拠点事業や他機関との連携

- ・居場所スタッフが利用者のニーズを聞き取って子サポのコーディネーターにつないだ。
- ・相談内容によっては、利用者支援事業や区の保健師、担当部署に繋いだ。
- ・子サポでは対応が難しい対応は、一時預かりや子育てタクシーなど近辺の他の資源を紹介してサポートに努めている。
- ・地域の通訳翻訳グループと協力して入会説明会資料を多言語化した(中国語・ベトナム語)。

評価の理由(区)

1 子育てサポートシステムの周知

区役所の情報コーナーにチラシを配架したほか、健診フロアに事業を周知するパネルを設置し乳幼児健診の際に案内した。

2 利用のきっかけづくり

各種家庭訪問、保育所入所説明会、小学校入学説明会など、他事業と連携し多様な場でチラシの配付や制度の説明を行った。

3 会員への支援

予定者研修会の実施にあたり、拠点と連携し、説明会の会場調整の他、研修講師の手配など、会員が活動しやすいよう必要な支援を行った。

4 拠点との協力体制

専門的な対応が必要な場面には区から必要な支援を行えるよう、支援機関を整理し拠点と共有した。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

・様々な年齢の子どもを持つ子育て世帯へ周知できるよう、保育園、小学校等様々な場所で周知を実施し、活動実績が増加した。

(課題)

・現在子サポを利用していない養育者に対し、どのように働きかけ利用に繋げていくのか検討が必要である。

振り返りの視点

ア 区民に対して、子育てサポートシステムについての周知活動を行っているか。

イ 提供会員数拡大に向けた取組がなされているか。

ウ 就労に関する以外の養育者のリフレッシュ等の理由での利用を含め、利用したい人が利用に結びつくための工夫をしているか。

エ 会員が相互の合意のもとに安心安全な活動できるよう、丁寧なコーディネートができているか。

オ 会員の声の把握に努め、必要に応じて活動内容の調整や追加のフォロー等を行っているか。

カ 活動における事故防止のための講習、個人情報取扱いに関する注意喚起など、会員への安全対策をはかっているか。

キ 提供・両方会員が安心・安全な活動を継続して行えるよう研修会等の取組がなされているか。

ク 会員が活動の意義を感じられ、会員間の親睦を深め信頼関係の構築のため、会員間の交流をはかる取組がなされているか。

ケ 援助活動の調整時や会員の声から把握した子育てのニーズを地域子育て支援拠点としての事業に活かしているか(新たな事業の実施や事業の見直しなど)

コ 利用相談の内容に応じて、子育てサポートシステム以外のサービス等の情報提供や関係機関に適切につないでいるか。

サ 専門対応が必要と考えられる相談については、専門機関に適切につないでいるか。

7 利用者支援事業

目指す拠点の姿	(参考) 1期目振り返りの課題	自己評価 (A~D)	
		法人	区
①拠点における利用者支援事業が、区民や関係機関に広く認知されている。	関係構築ができていない機関への周知を引き続き行う必要がある。	A	A
②相談者に寄り添い主体性を尊重しながら、個別相談に応じ、適切な支援を行っている。		A	A
③子育て家庭を支えるためのネットワークの一員として、包括的な視点を持って子ども・子育て支援に関する関係機関や地域の社会資源との協働の関係づくりを行っている。		A	B

評価の理由(法人)

(主なデータ)

【相談データ】

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
相談件数		666	681	742	774
うち新規件数		70(10.5%)	73(10.7%)	102(13.7%)	100(12.9%)
相談方法	面談	466	460	425	538
	電話	152	149	203	134
	オンライン	0	0	5	0
	出張先	48	72	109	102

- ① **区民に広く認知されるための工夫と仕組みづくり**
- ・拠点他事業との連携により直接周知が難しい場面での周知が進んでいる。
 - ・区との連携により、乳幼児健診や赤ちゃん教室に訪れる区民に広く周知ができた。
 - ・区役所の健診フロアに周知のためのパネルを設置した。
 - ・関係構築ができている関係機関や地域資源を通し周知されるように依頼している。
- ② **個別相談**
- ・ひろば巡回や出張相談など気軽に相談しやすい場と機会をつくっている。
 - ・相談の入り口として、「繋ぐ」と「継続」を意識しながら対応している。
 - ・区、関係機関と連携が必要な対応については、支援の中での役割を相互に確認しながら対応を行っている。
- ③ **地域の社会資源との協働の関係づくりと課題の明確化**
- ・個別相談から繋ぎ先となった関係機関や地域資源とは、関係強化を目的とした情報共有、課題の共有に努めている。
 - ・「お福分けの会」に関わることから見えてくる課題を関係機関や地域資源への周知に努めている。
 - ・外国人対応については、拠点外国人スタッフや、地域資源である通訳・翻訳グループ「カムオン・シェシェ」の協力を得て、丁寧に対応している。通訳アプリも活用している。
 - ・社会的背景や、活動から見えてきた課題のなかで、関係機関や拠点他事業と協力し新たなプログラム(妊娠期、父親、ダウン症等)を企画、実施している。

評価の理由(区)

- 1 **利用者支援事業の周知**
乳幼児健診や赤ちゃん教室、こんにちは赤ちゃん訪問などの区事業で子育てパートナーを周知するチラシを配付したほか、区役所の健診フロアに周知パネルを設置した。
- 2 **利用者支援事業の実施に係る支援**
毎月のカンファレンスの実施や情報提供等を通して、個別の対応や関係機関との連携について支援を行った。
- 3 **協働の関係づくり**
拠点と区専門職との連携を強化を図るため、様々な機会で見守りを持てるよう調整した。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

・利用者支援事業では、相談者の訴えに傾聴し、課題の整理や助言を行い、相談内容に応じて、最新の情報を活用し、速やかに適切な機関へ繋ぐ等切れ目のない丁寧な支援を行った。
・関係機関等へ利用者支援事業が周知され、新規相談に繋げることができた。

(課題)

・コロナ禍で広報活動が制限されていたため、今後は幅広く周知を行うと共に、各機関との関係づくりを更に進める必要がある。

振り返りの視点

ア 利用者支援事業を幅広く区民や関係機関に周知しているか。

イ 養育者に対して、気軽に相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。

ウ 最新の情報を収集し、活用できるよう工夫しているか。

エ 相談に対しては、傾聴に努め、ニーズを把握して対応しているか。

オ 拠点内でおパートナーの役割を理解し、日頃から相談者を拠点内でつなぎ合うことについて、お互いの役割分担を明確にしたうえで、相談対応・利用支援を行っているか。相談者の相談内容に応じて継続対応やつなぐ必要性を判断し、対応しているか。

カ 専門的な対応を要する相談に対して、相談内容と相談者のニーズを踏まえ、速やかに関係機関への紹介・仲介・支援依頼を行うなど、適切な対応をとっているか。

キ 拠点内連携、関係機関への紹介・仲介後も必要に応じて役割分担を確認しながら、フォローをしているか。

ク 相談の対応状況や支援の適切さ、拠点内外での連携状況等について、多角的な視点で振り返りや検討を行っているか。

ケ 利用者支援事業の周知や個別相談等の取組を通じて、支援につながる新たなネットワークの構築を行っているか。

コ 拠点のネットワークを活用し、関係機関や地域の社会資源との関係づくり・関係強化を行っているか。

サ 把握した課題を関係機関等と共有し、拠点事業の充実、必要な支援の調整や見直し、不足する資源の調整、提案や新たな創出につなげているか。